016.2
SA15

始

278
38

佐賀圖書館一覽

佐賀圖書館一覽目次

沿革……一
落成式……二
開館式……一〇
寄贈金品……二一
規則……二二
藏書……二〇
閲覽人及貸附圖書……三二
館外貸出……三六
分館及巡回文庫……三七
建物及設備……三七
館員……四〇
圖書雜誌新聞紙寄贈者芳名錄……四〇

附錄

九州圖書館聯合會記事……一

鍋島閑叟公銅像及佐賀圖書館

沿革

本館は大正二年十一月鍋島侯爵が藩政時代の所領地たりし佐賀士民の先考閑叟公の遺德を欽慕し、佐賀市に一大公園を起して園内に公の像を建てたる其情誼の厚きに感じ、加るに古來佐賀は學事の隆盛なるに拘らず、當時に至る迄公に私に社會教育の重要機關たる圖書館の設置なきを慨し、乃ち地を同園内の西北隅に卜して建設せられたるに成れり。

始め侯爵の圖書館設置を決定せらるゝや、同年一月中舊藩士にして日本圖書館協會評議員たる伊東祐穀及東京市立日比谷圖書館、財團法人大橋圖書館、宮城縣立圖書館等を建設經營して斯道に實驗ある元東京外國語學校教授伊東平藏の二氏に創立委員を囑托して之が一切の經營を擔當せしめられたり、依て委員は同年三月調査の上建設豫算額を決定し、建築設計は委員伊東平藏氏立案し、工事は清水組に托し、同年五月佐賀圖書館と命名し、其位置を現地點に確定して直ちに工事に着手せしめ、一面には創立事務所を東京市麹町區永田町二丁目七十五番地肥前協會事務所内に置き、委員の分擔を定め、事務を開始し、先づ圖書撰擇標準及分類項目を設定して其蒐集及購入並に帳簿目錄の調製に從事し、同時に各般設備品の意匠考案をなし及其製作を命じたり、九月十六日佐賀に於て上棟式を執行し十月下旬工事竣工に近づきしを以て事務所を佐賀に移す。

寄贈本
大正 4.4.27 寄贈

同年十一月十日侯爵には閑叟公銅像除幕式に臨場せられしを好機として同日落成式を擧行せられ、爾來委員は外には附屬工事の進行、門柵の築造等を促し、內には圖書の排列、設備品の裝置、目錄の編成を終はり、且つ規則を制定して大正三年一月三十一日縣知事に對して設置の開申をなし、尙ほ同月中侯爵より伊東祐穀氏に館長、伊東平藏氏に副館長を囑托せられ、二月十一日の良辰を卜して開館式を擧げ、同十二日より公衆一般の閲覽を開始す。

同年三月中館外借覽手續を定めて四月一日より實施し、同年十一月一日巡回文庫取扱手續を發表して直に實施し、同月十日落成式一周記念日に相當するを以て同日より二日間第一回九州圖書館聯合會を開催す。

以上は本館成立沿革の概要とす

落成式

本館建築工事大正二年十一月五日竣工したるを以て同月十日午後三時より落成式を擧行せらる、其次第左の如し。

開式　午後三時

一開式の辭　圖書館創立委員　伊東　祐穀

一式辭　侯爵閣下

一謝辭　大隈伯爵閣下

一創立事務報告　圖書館創立委員　伊東　平藏

一文部大臣閣下祝詞

一佐賀縣知事閣下祝詞

一佐賀市長祝詞

一來賓祝詞

一日本圖書館協會總裁閣下祝詞

一祝詞祝電披露

一維持基本金及圖書寄贈報告

閉式　午後四時

一式後舊物產陳列場に於て粗酒を供す

參列者は館主鍋島侯爵一行の外、鍋島子爵並に同夫人、直繩氏及夫人、大隈大木兩伯、不破知事以下郡市長等の官公吏、長谷川青木兩少將、狩野江副兩代議士縣市會議員、各銀行會社重役、各新聞記者其他早稻田圖書館長市島謙吉、大阪府立圖書館長今井貫一諸氏等二百餘名にして一同式場に參列する

や圖書館創立委員伊東祐穀氏は開式の辭を朗讀し次で鍋島侯爵には式辭を朗讀せらる、之に對し大隈伯はヤヲラ起て謝辭を述べられ、圖書館創立委員伊東牛藏氏の創立事務報告、奥田文部大臣(代讀)、不破知事、野口市長、今井大阪府立圖書館長其他の祝辭ありて更に日本圖書館協會總裁德川頼倫侯を始め帝國圖書館長田中稻城氏其他各地圖書館長よりの祝詞祝電を披露せられ次で子爵鍋島直虎氏より維持基金として金五百圓(第一回)大隈伯より早稻田大學出版部出版の和洋書百數十冊を寄贈せられたる事等の報告ありて閉式を告げ、夫より元物産陳列場に於て折詰瓶酒を饗し尚ほ紀念品を贈與す、世嗣直映氏には侯爵に代りて臨場せられたり。

式辭報告次の如し

△開式の辭

閑叟公御銅像除幕式の芽出度い日に當り佐賀圖書館の落成式を擧行することを得ましたのは頗る歡喜に堪へざる次第で御座ります殊に佐賀圖書館は閑叟公御銅像の記念として舊藩士民幷に寄附者諸氏の芳志に對し謂はゞ御返禮として鍋島侯爵家より御建て下さつたもので吾々創立委員は豫て育英の業に意を用ひらるゝ侯爵閣下の御心を體して圖書館建設の事を謹んで御受けしたので實に佐賀圖書館は閑叟公御銅像と同時に誕生したのであります從て御銅像が萬世に光輝燦然たると等しく圖書館も亦永遠の生命と將來の發展の基とを茲に啓かねばならないが圖書館其の物ばかりでは生存して行く事は出來ぬ御銅像と誕生を同じうしたる圖書館は千年も萬年も健全に存在して行かねばならぬ、そこで死んだものでなく生命ある圖書館を永遠に保存するには絶へず充分の滋養を與ねばならぬ卽ち圖書館は侯爵家によりて生れたのであるから、侯爵家の保護の下に之を養つて行くもの換言すれば今後各時代を通じて之を經營し、之を發展せしむるは上侯爵を始めとし當に佐賀人士でなくてはならぬ。

近頃は教育が進歩して之に伴ふ文明的設備も大に完備して參りました、圖書館なども東京は勿論各府縣に於ても隨分開設されました、教育の進んだ地方には其れに應じて圖書館の數も多いのであるが、我が佐賀縣が比較的教育は進んで居ながら今日迄公けの圖書館と云ふものが、なかつたのは御同樣誠に遺憾で又佐賀教育界の一大缺陷であつたと信じます幸に今後本圖書館の開設によりまして、從來の缺陷の幾分を補ひ得ますれば建設されたる主旨も亦全ふさるゝ譯合であります。

抑も圖書館は學校教育と相俟つて始めて社會文教の上に充分なる裨補貢献をなす事が出來るのであると思ひます、申すまでもなく圖書館は智識の寶庫であり思想の淵叢であるから之を自由に公開して各人の採擇に任ずる事は社會教育上甚だ緊要な事で、又極めて有益な事であると存じます依て私が圖書館建設を衷心慶賀する所以であります。

今日は侯爵閣下を始め御家旅御一門、大隈伯爵閣下、不破本縣知事閣下、御銅像建設常務委員の方々等御來臨下されたのは誠に光榮とする所でありまして且つ又今回圖書館落成式の爲に特に御參會を得

ましたる大阪府立圖書館長今井貫一氏、早稻田大學圖書館長市島謙吉氏其外貴顯紳士幷に敎育家の御臨席を辱ふしたる事は、殊に謹謝する所であります、どうぞ圖書館に就ての皆樣の御注意御希望は御腹藏なく御垂示を願ひまする尙ほ今後敎育會或は其の他の會合に於ても圖書館の利用方法などに就て御意見御披瀝の程を切に希望致す次第であります。

偖て圖書館の建物は愈々竣成致し差當り圖書は東京に於て買求めましたから數箇月の後に開館して公衆の閲覽に供する仕組でありますが、圖書館は唯だ書籍を死藏する樣であつてはならぬ、萬卷の書を藏しても之を活用する人がなければ駄目である夫れで活氣ある閲覽者を要求すると同時に之に對して復た圖書館員は常に供給を努めねばならぬ即ち本館に蒐集しました圖書は能ふ限り各方面に涉つて撰擇はしましたが創草の際で迚も一度に完備を望む事は出來ませんから、漸次に之を補足することゝして先づ中等學生諸君の爲に特に高等專門學校の入學に便せんと欲して其等の參考書類に意を用ひたのであります、是れは我が佐賀から成る可く多くの人材を輩出せしめんことを冀望するに外ならぬのであります、以上は單に抱負の大體であります、尙ほ此の圖書館の誕生しまする迄の事、建築に關する事、圖書の蒐集、整理及分類、目錄の設備等は私と共に創立委員を命ぜられましたる伊東平藏氏から後に詳細の報告があります。

要するに本館の建設は閑叟公御銅像と共に佐賀市の美觀でありまして公の颯爽たる英姿は長へに佐賀人士の師表となりますと共に、本館の事業が社會向上の羅針たる事を得ますれば私の欣び之に加ふるものはありません、本館の建築成りましたに付て聊か私の祝意を表します。

大正二年十一月十日

佐賀圖書館創立委員　伊東祐穀

△式辭

先考の遺德を慕ひ諸氏が協力して銅像を建設せられしは予の感謝する所なり之に對して予が謝意を表し縣下文敎の發展を翼襄せんが爲斯に圖書館を設立す是れ敎育の普及に樞要の機關たるを以て幸に先考の遺志を紹述され利用宜に適ひ他年善良の効果を收むるに至らば予の本懷とする所なり依て聊か設立の主旨を述べて式辭とす

大正二年十一月十日

正二位勳一等侯爵　鍋島直大

△大隈伯爵閣下の謝辭

閑叟老公御銅像除幕式の此最も芽出度日に於て鍋島侯爵閣下の深き思召により賜はりたる佐賀圖書館の落成式を擧ぐるを得たるは吾人の深く感謝する所なり閑叟老公は國家多事の際に當り軍政の改革兵器の改良をなし國用頗ぶる逼迫の際に當りて學政の爲即ち育英の資は如何に財政困難を來すも決して

減額することなく却て年一年に増加されたるの事蹟に想到して今日此の盛典に列し特に感興を深ふするは本館の位置は閑叟老公が育英の機關として振作されし弘道館の所在地の跡を去ること僅かに二丁の近きにあり圖書館が社會教育に偉大の効果を及ぼすことは云ふ迄もなき次第なるも未だ全國に普及するに至らず殊に三十六萬石の大藩なりし本縣に一の圖書館なきは甚面目なきことなりしに茲に侯爵の賜ものとして本館の建設を見たり去れど圖書館は之を維持し之を發展せしめざる可からず即ち佐賀市を中心として縣内各小都市にも此圖書館の効果を及ぼすを要す即ち巡廻圖書貸附をなし以て廣く其の恩澤に浴せしむべきは侯爵閣下の御趣意なるべきを信ず之を活用し之を偉大ならしむるには縣會にても市會にても一般篤志者と共に之を援助するに於ては年々新進の出版物を購入するの資を得るに於て易々たることなりと信ず吾人は侯爵の士民に賜はりし本館の建設を感謝すると同時に諸君の援助を希望する次第なり

△創立事務報告

佐賀圖書館建築工事成りて茲に閑叟公御銅像除幕式を好機とし本館落成式を擧行せらるゝに當りて本館創立事務の梗概を報告することを得るは吾々委員の最も光榮とする所なり

去る五月中本館創立事務所を東京に置かれ爾來半箇年間委員は身の不敏を顧みず拮据事に此に從ひしは創立事務中に於ても特に圖書館建築事項と又圖書の蒐集及整理とに在りて其他は皆斷續又は準備中に屬するを以て今是の二件に就き其の概要を開陳する所あらんとす

△建物の位置及構造

本館は御銅像園内北西の隅に占位し略ほ市の中心に當れるを以て各方面よりの來館人に最も便なるのみならず四邊閑靜にして園内晴好雨奇の眺望あり圖書館建設地として眞に最好適地なりと信ず

本館の構造は主館、書庫の二棟及附屬家より成り初め圖書館としての構成及室割は委員之を設定し設計製圖は清水組技師擔當し、御銅像建設工事監督栗原要藏監督の下に於て大正二年六月起工し同九月十六日上棟式を擧げ同本月本日を以て竣工を告ぐ建築工事請負者は東京清水滿之助なり

主館は梁間六間桁行七間の木造二階建にして地盤より軒までの高さ三十尺、基礎は杭打ち地形、用材は檜、杉、桧材等にして小屋は「クインポスト」屋根スレート葺なり然して階下は表玄關及新聞室兼用の長方形をなせる一室を初め迎賓室、事務室、閲覧人休憩室、應接室、宿直室等にして其の坪數通計四十五坪五合又階上階段室五坪に隣接する廣間は即ち閲覧室にして面積四十坪五合を有し閲覧人約八十名を收容するに足る窓は十四個所を設け其の内法高さ七尺幅三尺なるを以て通風及光線の射入に充分なりとす但し同室は其の一部を仕切りて婦人席を設くる豫定にして又渡り廊下によりて書庫三階に通し以て圖書の出納に便にし、裏階段は專ら事務員昇降の用に設けたるものとす

書庫は煉瓦造三階建にして主館の北方にあり梁間參間桁行五間面積十五坪、三層通計四十五坪にして

優に圖書三萬五千冊を藏置することを得基礎は主館に等しくして軒の高さ地盤より二十七尺、煉瓦長手二枚厚壁に積み上げ、外部見出し積、內部漆喰塗り壁、小屋は木製「キングポスト」屋根にして瓦葺なり、床は板張にして床板ごとに三分の間隔を置きて張りしは特に通風に注意したるに依る、窓は書架と書架の間に充分光線を射入なさしむる樣設け其の數三層を通して四十個所とす一階及三階人口及本館に面する窓には鐵扉の防火裝置をなし以て非常の場合に備ふ

附屬家は平家建瓦葺き十七坪五合、其の構造は普通日本家造りにして小使室、製本室、物置、廊下等なりとす

其他瓦斯及電燈の裝置をなしたる中に就き瓦斯燈は燈數十二個八百燭光餘、電燈は六十三個九百三十燭光なるを以て夜間開館をなす場合に至るも更に差閊なく又冬期採暖には各室暖爐の設備あり

約言すれば本館は輪奐の美、壯大の觀なしと雖ども堅牢質素を旨として設計し且つ其の建築には輓近の發見又は工風に係る新規材料を使用せられたりと聞く然して以上に要せし經費概算は壹萬七千圓餘なりとす

△圖書の蒐集及整理

本館建設に關する侯爵閣下の御趣旨は當地方民一般の讀書趣味を涵養し併て其の顧問の府となし、學校及社會教育を裨補擴充すると同時に鄉土史料の逸散湮滅を防ぐに在るを以て委員は謹て之を體し且つ本館の將來佐賀縣下唯一の地方圖書館として其の任務を盡さゞるべからざるに至ることを考慮して豫め圖書撰擇の標準を左の如く定め去る五月以來其の蒐集に着手したり卽ち

一　讀書の趣味を增進なさしむるに適する通俗平易の圖書

一　學生の自習に資すべき圖書

一　學術技藝の研鑽に資すべき圖書及百科全書の類

一　地方產業に關する圖書

一　鄉土に關する圖書及報告書の類

右の標準に依り精密愼重に撰擇して去る五月以來九月末に至る迄購入したる和漢洋書冊數貳千餘冊なり

又是の間に寄贈を受けたる圖書冊數は百貳拾壹冊なりとす

然して是等の圖書は之を部門十門に分類し圖書ごとに函號番號を附して既に各關係部門に編入し且つ購入圖書目錄、寄贈書目錄、事務用カード目錄、函架目錄、閲覽用分類カード目錄に登簿したり但し書架に排列の順席も亦同一分類法に依る

此の他開館の期に至るまで和漢洋書を通して豫定の如く尙ほ約壹千部購入の見込なり

終りに臨みて添陳す本日の莊重なる祝典は恰も艦船の進水式に於けるが如く然り、進水後艦船は艤裝

の必要ありて爲に數月の日子を費さゞるべからざると等しく、本館も歡呼の間に建築工事竣工を告げ是れより艤裝時期に入りて書架、卓子、昇降機其他内部に於ける器械器具一式の製作裝置及圖書の排列に着手せざるべからず殊に書庫の如きは充分乾燥なさしむるの必要あるを以て從て開館の期は數箇月の後たるべきことを諒せられんことを

右謹て報告候也

大正二年十一月十日

佐賀圖書館創立委員　伊東平藏

△祝　辭（伊東祐穀氏代讀）

鍋島閑叟公の挺身王事に勤勞せられしと共に深く心を政治に潛め其の德澤の及ぶ所頗る大なるものあるは夙に世に著聞する所公世を辭して茲に四十有餘年士民今に至りて猶其の遺德を仰慕し公の像を佐賀市に建てゝ古人甘棠の遺意に倣ふ公の令嗣鍋島侯爵此の擧を聞きて其の情の厚きを喜び乃ち地を像の側に卜して新に圖書館を設け以て佐賀士民の爲に其の敎化を資くる所あらんとす蓋し亦公濟民の志を紹く所以なり彼此情誼の溫き洵に欽ずるに勝へたりと謂ふべし

館の經營既に成りて爰に開館の式を擧ぐ顧ふに侯爵の意を舊藩士民敎育の爲に致さるゝの深き當事者の簡揀其の人を得たる必ずや企畫經營其の宜しきに適して頭角を鎭西幾多の圖書館中に露はすものあらん冀はくは本館が當事者の精勵によりて克く健全なる發展を遂げ縣下敎育の進歩を翼贊して故公の遺意を紹述せる侯爵の本旨に副はんことを聊か所懷を陳べて開館を祝するの辭とす

大正二年十一月十日

文部大臣法學博士　奥田義人

△祝　詞

鍋島侯爵家の施設に係る佐賀圖書館新築既に成り茲に本日を以て落成の式を擧げらるゝに當り不肖能惟ふに人文の發達は社會の進化を催し社會の進化は益々人文の發達を要求するや切にして世界の列强競ふて敎育事業の施設經營に汲々たる者ありと雖尙ほ以て時代の要求を充たすに足らざるなり我國今や列强の班に伍し國威四海に輝くと雖開國未だ五十年に滿たず寧んぞ六千萬の同胞をして悉く文明の惠澤に浴せしむるを得んや茲に於てか圖書館の必要起り全國の都市其設備を企畫するもの愈々多きを加ふと雖元と之れ容易の業に非ず其の實施を見るは僅かに指を屈するに足れり此時に際し一小都會に過ぎざる我が佐賀市に於て此壯麗なる圖書館の建設を見るは之れ全く侯爵家の賜物にして實に佐賀人士の依つて以て智識を增進する唯一の公共的機關なれば吾人侯爵家の舊領民に對する情誼を深く感謝すると共に之に據りて益々我が文化の進展に資せんことを期す今日此の盛典に列するに當り市民を代

表し聊か所思を述べて祝詞に代ふと云爾

大正二年十一月十日

佐賀市長　野口能毅

△祝　辭

大正二年十一月十日茲に本日を以て我圖書館界に更に有力なる一圖書館を加ふるを得たるは斯業のため將た國家教育の爲洵に慶賀に堪へざるなり殊に此新圖書館が當地方に最も親密なる關係を有せらるゝ鍋島侯爵家の建設に係るものなるが故に其設立の意義を一層深長ならしめ且本邦圖書館事業の發達を刺戟することの尠からざるを信じ謹で祝意を捧ぐると同時に圖書館の實務に從事する者の均しく感謝するところなり

圖書館は單に讀書人の專有たらしむ可からず普く一般公衆の共用に屬せしむべきものなりとは近時の圖書館思想なり此新思想一たび歐米の斯界に唱道せらるゝや所謂庶民用の教育的圖書館事業たちまち勃興し其利用益擴充し効果愈大なるに隨て終に圖書館は一般教育界に適確なる一大新天地を開拓し學校教育と相並び相俟て國家教育の大部分を造立するものなることを公認せらるゝに至れり

現今本邦の圖書館その公開に屬するもの僅に六百有餘之を六千萬の國民に對比すれば固より過少にして以て盛大なる歐米圖書館事業に比すべくもあらず從て未だ我教育界に強固なる地歩を占むるに至らざるも最近我圖書館事業漸く勃興の機運を示し各地に此れが新計畫を見るは國家の爲最も喜ぶべき現象なりとす此の時に當りて一個の有力なる圖書館の新設立は直ちに他の數個の新圖書館を誘致するに至るべく殊に社會の上流者の進で斯事業に力を致さるゝは即ち社會一般に對し其業の必要を確保さるゝものにして最も甚大なる斯業の奬勵なりと謂ふべし此點に於て佐賀圖書館の新設は單に舊藩主が舊領地に於ける絶好の記念事業なりとして祝賀するのみならず本邦圖書館事業の爲鍋島侯爵閣下に對し謹で敬意を表す一言以て祝辭とす

大正二年十一月十日

大阪府立圖書館長　今井貫一

△祝　辭

謹みて佐賀圖書館の建築落成を賀し併せて同館將來の隆福を祈る

大正二年十一月十日

東京帝國大學附屬圖書館長　和田萬吉

△祝　辭（市島謙吉氏代讀）

茲に故鍋島閑叟公銅像除幕式の日を以て新に鍋島侯爵家の設立に係れる佐賀圖書館の落成式を擧行せらるゝに際し聊か祝意を表することを得たるは最も光榮とする所なり

顧みれば故閑叟公は一世の先覺者として本邦の長ずる所と西洋の優れる所とを併せ取り夙に新たなる文華を九州の一角に扶植せられ更に進んで維新開國の大業を翼賛せられたり卽ち故公の銅像は直ちに是れ九州の文華を代表する一大標章にして又實に維新開國の歷史を不朽に語るべき一大記念像たり今故公の文華を扶植せられし佐賀市に於て故公の銅像を建設したるに對し侯爵家に於て之が記念の爲當今文華事業の一として稱せらるゝ圖書館を其の地に設立せられたるは眞に故公文華の扶植の地をして更に一段の光輝を放たしめられたるものと謂ふ可し念ふに九州の地文華事業として着手せられしもの固より之なきにあらずと雖ども從來未だ圖書館の設けあるを聞かず同族の中亦其の舊封地に於て此の事業を起されたるを耳にせず今乃ち侯爵家が率先佐賀市に於て此の擧に出でられたるを見る是れ實に機運方に新たなる當代の初頭に於て眞個一世の模範を示されたるものなりと信ず今後故公の銅像を文華事業の鎭護と仰ぎ時運の進歩に伴ふて益々圖書館の効用を發揮せしめられむことは固より確信して疑はざる所なり其の人文に寄與し邦家に貢献する所や眞に至大なるものあらん不肖等聊か微力を此の事業に致す者此の如きの盛擧あるを聞き殊に滿身の欣慶に堪へず獨り侯爵家の此の盛擧に對し推服措く能はざるのみならず創立委員として伊東祐穀、伊東平藏二君が特に盡力せられたるの勞は不肖等の中心多謝する所なり乃ち落成式に際して遙に一言を寄せ以て祝辭と爲す

大正二年十一月十日　　日本圖書館協會總裁侯爵　德川頼倫

△祝　辭（伊東平藏氏代讀）

近世の名君鍋島閑叟公銅像新に佐賀市に建設せられし記念として鍋島侯爵家に於て設立せられたる佐賀圖書館功を竣へ本日を卜し落成式の盛典を擧げらるると聞き余は我國圖書館事業の先覺指導者たる伊東祐穀、伊東平藏兩君と數年親交を辱うするの光榮を有する因に依り遙に蕪言を寄せ祝賀の微意を表せんとす

抑圖書館設立の動機一にして足らずと雖も記念的事業として建設せらるゝもの古來東西の間多く行はるゝを見る蓋し圖書館は大なる人事の慶弔榮譽を倚て以て永遠に記念として傳ふるに最も好個の事業たるに因る殊に佐賀圖書館の建設に就きて余は特に意義の深きものあるを感ず余常に思ふに學校と圖書館とは一は教育の建設機關にして他は教育の守成機關たるべく而して教育有終の美を濟すは實に此兩者兩全して人の生涯を通じ學修繼續の便備るにあるものとせり然るに故閑叟公自から奉するに節約を以てせられ當時別莊の大なるものは之を學校に納れられて深く建設的教育の根蔕を堅められたるに今其の守成的教育機關たる一大圖書館を現侯爵家に於て建設せられ普く一般公衆の利便に供せらるゝは眞に教育有終の美擧として欣慶の情に堪へざる所たればなり而して建築は經驗に富める兩君の設計に係り且つ伊東平藏君事業經營の任に當らる整備言ふを俟たず將來佐賀圖書館の發展期して待つべきのみ幸に縣民教育の一般に圖書館の利用に親しまれ常に文化風教の開進と殖產興業の發達に資せられ

なば故閑叟公の德化は愈深く愈洽からん仰げば公の銅像は永へに世の儀表たるべく俯せば智德修養の源泉として敎育の守成機關たる佐賀圖書館の鴻益窮りなく縣下に普かるべし文献の振興今より一層見るべきものあらん更に銅像と圖書館と建設の起因に至りては寔に誠意の姉妹として胚胎せるものにして之より與ふる偉大なる感化の百世に及ぶべきを信じ今日の光榮ある美擧に對し滿腔の敬意を表するものなり聊か蕪言を陳し祝意を寄す

大正二年十一月十日　　行啓記念山形縣立圖書館長　渡邊德太郎

△祝　辭（同上）

近來我國圖書館の新設せらるゝもの年々僕指に暇あらず而かも規模堅實眞に名實兼備するを求むれば未だ寥々たる嘆なきを得ず是の時に當り佐賀圖書館は舊藩侯鍋島家の寄附に依り新たに成り建築堅牢設備整頓以て他の模範と爲すに足ると傳ふ惟ふに佐賀は古來鎭西の雄藩文物典章久しく天下に聞ゆ余は未だ其新設圖書館を視ずと雖も其地に於ける舊藩侯の寄附に成ると聞けば規模の堅實せるは固より論なし且つ親友伊東祐穀、伊東平藏の二氏主として設計の任に當ると聞くに及び二氏が平素圖書館事業に精通せらるゝに鑑みて益々堅牢整頓の聞く所に違はざるを確信す是れ佐賀市の爲に祝すべきにあらず延て我國家敎育の上に裨益すること甚だ大なるを思ひ遙に其落成を祝す

大正二年十一月十日　　財團法人大橋圖書館理事　坪谷善四郎

△祝電一束

兩君の御盡力により本日御落成に至れるを祝す

落成を祝す發展を祈る　帝國圖書館長　田中稻城

貴館の落成を祝す　茨城縣立圖書館長　菊池謙二郎

遙に貴館の落成を祝す　慶應義塾大學圖書館

御落成を祝す　成田圖書館主任　高津親義

蝦館御落成を祝す　山口縣圖書館長　佐野友三郎

御落成を祝し前途の隆盛を祈る　石川縣立圖書館長　並河直廣

遙に盛典を祝す　米澤圖書館長　妹尾盛親

落成を祝す　京都府立圖書館長　湯淺治郎

落成式を祝す　秋田縣立秋田圖書館長　岡忠精

佐賀圖書館の落成を祝し將來の發展を祈る　京都大學附屬圖書館長　文學博士　新村出

貴館の落成を祝す　宇和島圖書館

盛典を祝す　鹿兒島縣立圖書館

落成式を祝す　宮城縣立圖書館
貴館の落成を祝す　私立江北圖書館長　杉野文彌
御落成を祝す　鳥取縣立圖書館　遠藤董
貴館の盛典を祝す　若松市立會津圖書館長　小川謙三

開館式

大正二年十一月十日本館建築工事竣功し鍋島侯爵親しく臨場して落成式を擧行せられたるが爾來內外の設備に從事し略ぼ整頓したるを以て大正三年二月十一日開館式を擧行したり

同日來賓は白耳義駐劄公使鍋島桂次郎氏、佐藤佐賀縣內務部長、松村同理事官、各官公衙學校及銀行會社員等百有餘名にして午後三時樓上閱覽室に於て式を擧ぐ、一同着席記念撮影の後副館長伊東平藏氏は立て擧式の旨を告げ、館長伊東祐穀氏は式辭を朗讀し、鍋島公使及佐藤內務部長は祝辭を演述せられ次て伊東副館長は館主鍋島侯爵閣下の開館を祝する旨の電文を朗讀し又鍋島公使より三百圓宛五ヶ年間金壹千五百圓、伊東祐穀氏より一時金壹千圓を基本財產中に寄附の旨を披露し、最終に來賓に謝辭を述へて四時半式を終へたり

此日式に參列の諸賓の外午前十時より縣內有志無慮二百五十名を案內し、館內隈なく縱覽なさしめたる上來館者一同に對して茶菓及辨當を饗したり、同夜六時より市內楊柳亭に於て官民有志者開館祝賀會を催せり

寄贈金品

本館落成以來江湖篤志の人々より圖書、雜誌、新聞紙の寄贈を受けたるもの尠からずして特に左記の諸氏よりは金品及一時に高價又は多數の圖書を寄贈せられたり

一金五百圓　本館維持基本金トシテ（第一回）　子爵　鍋島直虎閣下
一金千五百圓　同　上（五ヶ年賦）　鍋島桂次郎君
一金壹千圓　同　上（後ニ本館ノ隣地本人所有松原町字松原小路七十番ノ五ヨリ九マデノ內若干坪ヲ以テ寄贈ノ事ニ變更ス）　伊東祐穀君
一和漢書　百三十六冊　伯爵　大隈重信閣下
一同　百七十七冊　成富甲子太郎君
一洋書　六十二冊　ヒ　ー　ク君

一アンサイクロペヂイ、ブリタニカ全部　中野禮四郎君
一閑叟公肖像額面　神代直實君
一鍋島侯爵肖像自筆油繪額面　高木誠一君
一故副島伯書及梧竹書大幅二軸　中野道明君
一熊川山水自筆油繪額面　鶴清氣君
一「棟割長屋の夕」自筆油繪額面　山口亮一君
一有田深川燒大花瓶鶴浮出し模様一個　深川忠次君

右の如く江湖篤志家諸氏の本館に寄せらるゝ同情の深厚なるは本館の深く感謝する所にして別に芳名を收錄して聊か謝意を表す

規則

佐賀圖書館規則

第一章　總則

第一條　本館ハ地方公衆ノ智德啓發ニ裨補スル爲圖書ヲ蒐集シテ廣ク其閲覽ニ供スルヲ以テ目的トス

第二條　何人ニテモ滿十二歲以上ノ者ハ本館ニ登館シテ圖書ヲ閲覽スルコトヲ得但館内ノ秩序ヲ紊シ若クハ靜肅ヲ害スル虞アリト認メタル者ハ登館ヲ許サス

第三條　本館ハ閲覽料ヲ徵セス

第四條　本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

	開館	閉館		開館	閉館
一、二月	午前九時	午後四時半	九月	午前八時	午後五時
三月	午前九時	午後五時	十月	午前九時	午後五時
四、五、六月	午前八時	午後六時	十一、十二月	午前九時	午後四時半
七、八月	午前七時半	午後六時			

第五條　本館定期休館ノ時日ハ左ノ如シ但臨時ノ休館ハ其時々掲示スヘシ

歲首（自一月一日至同六日）　紀元節（二月十一日）　天長節（十月三十一日）　圖書館設立記念日（十一月十日）

曝書期（十、十一月中凡二週間）　歲末（自十二月二十六日同三十一日）　館内掃除（毎月末日）　毎月曜日

第二章　圖書閲覽

第六條　本館ノ圖書ヲ閲覽セムトスル者ハ玄關守衛ニ就キ閲覽證用紙ヲ受ケ其氏名、住所、職業及求覽ノ圖書名、著者名、函號、番號、冊數ヲ明記シ貸渡所ニ出シテ書冊ヲ借受クヘシ

求覽ノ圖書名等ハ備付ノ目錄ニ就テ檢索スヘシ

第七條　圖書ヲ借換ヘントスル者ハ已ニ借受ノ圖書ヲ貸渡所ニ返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスヘシ

第八條　退館セントスル者ハ圖書ヲ貸渡所ニ返納シテ閲覽證ニ係員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ玄關守衛ニ交付スヘシ

第九條　同時ニ借受クルコトヲ得ヘキ圖書ノ冊數ハ三種以内トシ和裝書ハ九冊、洋裝書ハ三冊、和洋併借ノ時ハ七冊ヲ以テ定限トス

第十條　閲覽室ニ於テハ靜粛ヲ旨トシ音讀談話及喫煙ヲ許サス

第十一條　借受ノ圖書ヲ亡失又ハ汚損シタル者ニハ本館ノ指定ニ從ヒ現品又ハ相當代金ヲ以テ辨償セシム

前項辨償ノ義務ヲ了セサル間ハ本館ノ圖書ヲ貸與セス

第十二條　本館ノ規定ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリト認メタル者ハ直ニ退館セシメ且其情狀ニヨリ登館ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第三章　圖書寄贈

第十三條　圖書ヲ寄贈セムトスル者ハ其圖書名、冊數、價格及氏名住所ヲ詳記シテ本館ニ提出シ豫メ許諾ヲ得タル上現品ヲ送致スヘシ

第十四條　寄贈ノ圖書ハ特ニ寄贈書目錄ニ其圖書名及寄贈者氏名ヲ記載シテ其好意ヲ永遠ニ表スヘシ

第十五條　圖書ノ寄贈ニ要スル荷造費、運搬費等ハ寄贈者ノ負擔タルヘシ但時宜ニヨリ其全部又ハ一部ヲ本館ニ於テ支辨スルコトアルヘシ

第四章　館外借覽

第十六條　圖書ヲ館外ニ借受ケテ閲覽セムトスル者ハ館長ノ特許ヲ受クヘシ但當分佐賀市内ニ在住スル者ニ限ル

第十七條　未成年者ハ前條ノ特許ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル圖書ハ館外借覽ヲ許サス

一、貴重ノ圖書、辭書、墨帖、目錄類

二、登館閲覽人ノ請求多キ圖書

三、新着ノ圖書及末裝釘ノ雜誌類

但新着圖書ハ相當日子ヲ經過スルトキハ館外ニ貸與スヘシ

第十九條　館外借覽ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　巡回文庫

第二十條　本館ハ遠隔ノ地ニアリテ圖書閲覽ノ便ヲ有セサル者ノ爲ニ巡回文庫ヲ縣下各郡町、公立圖書館、公立學校ニ無料ニテ廻付ス

郡町長、公立圖書館長、公立學校長ニ於テ巡回文庫ノ廻付ヲ受ケムトスルトキハ其旨ヲ本館ニ請求セラルヘシ

第二十一條　巡回文庫ノ廻付ヲ受ケタルトキハ郡町長、公立圖書館長、公立學校長ハ之ヲ管理シ且便宜ノ場所ニ閲覧所ヲ設ケ豫メ閲覧及貸出ニ關スル細則ヲ定メテ本館ニ通報スヘシ

第二十二條　縣下ニアル私立圖書館及青年團体ニシテ其管理確實ト認メタルモノハ設立者ノ請求ニ依リ巡回文庫ヲ廻付スルコトアルヘシ

第二十三條　巡回文庫ノ圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ當該管理者ハ本則第十一條ニ依リ其責ニ任スヘキモノトス

私立圖書館及青年團体ニ於テハ設立者ヲシテ辨償セシム

第二十四條　巡回文庫ノ運搬ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第二十五條　巡回文庫ノ取扱ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

佐賀圖書館館外借覧規程

第一條　本館規則第十六條ニ依リ圖書ヲ館外ニ借受ケテ閲覧スル特許ヲ得ントスル者ハ左ノ書式ニ依リ書面ヲ以テ請求スヘシ

許可ノ上ハ三錢印紙貼付ノコト

特許證下附願

私儀貴館御所藏ノ圖書ヲ自宅ニ於テ借覧致度候間特ニ御許可相成度借覧圖書ニ關シテハ貴館規則其他ノ示達ヲ嚴守シ且鄭重ニ取扱フヘキハ勿論萬一亡失若クハ汚損シタルトキハ貴館ノ命ニ從ヒ現品又ハ相當代金ヲ以テ辨償致スヘク候也

年　月　日

住所　職業

氏名　㊞

生年月

佐賀圖書館長宛

本館ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證人ヲ立テ連署ナサシムルコトアルヘシ

第二條　館長ニ於テ前條ノ申出ヲ聽許シタルトキハ特許證ヲ附與スヘシ

第三條　特許證ヲ附與セラレタル者ハ特許證領收證ト共ニ印鑑ヲ差出スヘシ

第四條　特許證ノ有効期間ハ附與ノ日附ヨリ滿一ケ年トス

第五條　本館ハ館外借覧圖書集配ノ用ヲ辨セシムル爲毎週約一回圖書集配者ヲ特許證ヲ有スル者ノ宿

所ニ廻ラシム

但集配者ニハ本館ノ證明票ヲ携帶セシムルヲ以テ圖書受授ノ際ハ毎次之ヲ檢スヘシ

第六條　圖書ヲ借受ケムトスルトキハ其氏名及所要ノ圖書名、著者名等ヲ館外借覽證ニ明記シテ捺印シ之ニ特許證ヲ添ヘテ本館ニ差出スヘシ

但第二回目ヨリハ集配者ニ交付シテ請求スルコトヲ得

本館ハ請求ノ日ヨリ二日內ニ集配者ヲシテ特許證ト共ニ圖書ヲ請求者ノ宿所ニ配達セシムヘシ

第七條　借覽圖書ノ員數ハ二種以內トシ和裝書ハ三冊、洋裝書ハ一冊、和洋併借ノ時ハ四冊ヲ以テ定限トス

第八條　圖書借覽ノ期間ハ十五日以內トシ尙ホ引續キ借覽セムトスルトキハ一旦返納シテ更ニ借受ケノ手續ヲナスヘシ此場合ニ於テ他ニ同一圖書ノ借覽ヲ請フ者アルトキハ續借スルヲ得ス且借覽期間內ニ於テモ本館ニ於テモ必要アル場合ニハ隨時返納ナサシムルコトアルヘシ

第九條　借覽圖書ヲ返納セントスルトキハ該圖書ニ特許證ヲ添ヘテ集配者ニ交付スヘシ圖書ノ返納ヲ檢印シタル上特許證ト共ニ借覽證ヲ返付スヘシ

第十條　特許證ヲ有スル者ハ每月五日限リ借覽料金拾錢ヲ納付スヘシ

第十一條　本館ハ時々館外貸出圖書目錄ヲ編製シ實費ヲ以テ希望者ニ頒ツヘシ

第十二條　特許證ヲ有スル者ニシテ氏名ヲ變更シ若ハ轉居シタルトキハ直ニ特許證ノ訂正ヲ請フヘシ

保證人前項ノ場合ニハ直ニ其旨ヲ屆出スヘシ

第十三條　特許證ヲ遺失シタル場合ニハ速ニ屆出テ更ニ其附與ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　第十二條ノ手續ヲ怠リタルトキハ爾後其特許證ヲ無効トシ其事情ニ由リ再ヒ附與セサルコトアルヘシ

第十五條　借受ケタル圖書ヲ亡失若クハ汚損シタルトキハ本館規則第十一條ニ依リ處分ス

但其事情ニ由リ特許證ヲ無効トシ且再ヒ之ヲ附與セサルコトアルヘシ

第十六條　縣內所在ノ官公署及公私立學校ニ於テ圖書ヲ借覽セムトスルトキハ當該首長ノ申出ニ依リ本規程ノ手續ヲ省略シ二十日間ヲ限リ貸與スルコトヲ得

佐賀圖書館巡回文庫取扱手續

第一條　巡回文庫ノ發送及交換期日ハ本館ニ於テ定メ同文庫廻付ノ請求アリタル各郡町公立圖書館公立學校等ニ通知スヘシ

第二條　巡回文庫ニハ該文庫收藏ノ書目、閱覽成績表、領收證用紙ヲ添付シテ發送スヘシ

第三條　巡回文庫ノ廻付ヲ受ケタルトキハ同文庫管理者ハ書目ニ對照シテ冊數及圖書ノ狀態ヲ調査ノ

上直ニ領收證ヲ本館ニ送致スヘシ

第四條　本館送付ノ書目ハ町村役場公私立學校青年團體等ニ配付シテ一般公衆ニ周知セシメ、閲覽成績表ハ各月閲覽人員、閲覽又ハ貸出圖書ヲ統計シテ所定ノ欄内ニ記載スヘシ

第五條　巡回文庫ノ使用期間ハ廻付ヲ受ケタル月ヨリ三ケ月ヲ超ユルヲ得ス

第六條　巡回文庫ノ使用ヲ了リタルトキハ同文庫管理者ハ圖書ヲ整理シテ文庫ニ收藏シ返納書ト共ニ期日後一週間内ニ本館到着ノ見込ヲ以テ返付スヘシ

第七條　巡回文庫成績表ハ翌月五日迄ニ本館ニ送致スヘシ

第八條　各郡町公立學校等ニ於テ閲覽所ノ位置又ハ閲覽及貸出ニ關スル規定ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ其旨ヲ本館ニ報告セラルヘシ

大正三年九月

藏書

本館は普通地方圖書館として呱々の聲を揚げ、讀書趣味を增進普及なさしめて地方公衆の智德啓發に裨補する所あらんことを期するを以て從て、藏書撰擇の標準も自から之に應せざるべからず、而して其標準を定むること左揭の如し

一、讀書の趣味を增進なさしむるに適する通俗平易の圖書
二、學生の自習に資すべき圖書
三、學術技藝の研鑽に資すべき圖書及百科全書の類
四、地方產業に關する圖書
五、鄕土に關する圖書及報告書の類

右の標準に據り蒐集したる圖書冊數は大正二年度二千四百四十冊、同三年度二千八百九十八冊、合計五千二百九十八冊にして内四千二百九十五冊購入、千三冊寄贈に係れり之を和漢洋に大別する時は和漢書五千三十六冊洋書二百六十四冊なり但右には雜誌講義錄百十二種千百二十三冊を算入せす

圖書分類統計

部門	題目	和書	漢書	洋書	合計	百分比例
第一門	書目、事彙、叢書、隨筆、少年圖書	三九二	五一		四四三	八·三四
第二門	宗教	七二	一三		八五	一·六一
第三門	哲學 附教訓	三二四	一二		三三六	六·三四
第四門	法律、政治 軍事	二九七	四		三〇一	五·六八

第五門	社會、經濟財政、教育等	五六七	二八	五九五	一一・二三
第六門	文學語學	一三三三	一一二	一四四五	二七・二八
第七門	數學、理學工學、醫學	四三九	三	四四二	八・三四
第八門	産業（農、工、商業）	五〇四	四	五〇八	九・五九
第九門	美術諸藝	二六七		二六七	五・〇四
第十門	歴史、傳記地誌、紀行	八四一	三八	八七九	一六・五五
小計		五〇三六	二六五	五三〇一	一〇〇・〇〇

閲覧人及貸附圖書

本館開館第一年即ち大正三年中に於ける開館日數は二百六十二日、圖書閲覧人三萬六千九百六十七人、新聞閲覧人三萬千四十七人强、合計六萬八千十四人、一日平均二百五十九人强にして之を同年十二月現在の佐賀市人口三萬七千五十一人に配すれば一人八分强となるを以て即ち全市住民は何れも約二回弱來館せし割合となれり。

又同年中圖書貸付冊數は八萬千三百八冊、一日平均三百十冊弱、圖書閲覧人一人平均二冊二分にして之を藏書冊數五千三百一冊に配當すれば一冊の圖書貸付割合は平均十五回强に當れり、尙ほ其他に關しては左表之を詳かにす

圖書閲覧人統計（大正三年）

	學生	教育家	官吏軍人	實業	婦人	其他	少年	合計
館内	一八、二八九	八三八	一、三八二	四、五八四	二、四五六	六、一〇二	二、〇二七	三五、六七七
館外	二	七二	四五七	五〇三	九八	一五八		一、二九〇
總人員	一八、二九一	九一〇	一、八三九	五、〇八七	二、五五四	六、二五九	二、〇二七	三六、九六七
一日平均人員	六九・八一	三・四七	七・〇二	一九・四二	九・七五	二三・八九	七・七四	一四一・一〇
百分比	四九・四八	二・四六	四・九八	一三・七六	六・九一	一六・九三	五・四八	一〇〇・〇〇

圖書閲覧人員及閲覧日數各月比較統計（大正三年）

月別	閲覧人員	開館日數	一日平均閲覧人員	閲覧人最多數ノ日	同上人員	閲覧人最少數ノ日	同上人員
二月	三、一二	一五	二〇七・四〇	二十二日、日曜、晴	三六三	十八日、水曜、雨	五九
三月	五、六五二	二五	二三六・〇八	二十九日、日曜、晴	三八六	日、金曜、風	一〇八

月						
四月	四、八〇九	二四	二〇〇・三八一	日、水曜、晴	三六二十三日、木曜、曇	一〇六
五月	四、一五一	二五	一六六・〇四三	日、日曜、晴	三一二十八日、木曜、晴	七四
六月	三、四六五	二四	一四四・三七七	日、日曜、晴	二八九二十三日、火曜、雨	五九
七月	二、八三七	二六	一〇九・二十二	日、日曜、晴	二三九八 日、水曜、晴	五八
八月	三、〇三三	二六	一一六・六二一	日、土曜、曇	二六〇二十五日、火曜、雨	四三
九月	三、〇一九	二五	一二〇・七六	二十四日、木曜、曇	一九三二十九日、火曜、雨	七一
十月	二、六七五	二六	一〇二・八八	十一日、日曜、晴	一七九二十八日、水曜、雨	四五
十一月	二、五一四	二四	一〇四・七五一	日、日曜、晴	二二五二十日、金曜、雨	五二
十二月	一、七〇三	二三	七七・三六六	日、日曜、晴	一五八十六日、水曜、晴	二五

貸附圖書冊數及分類統計（大正三年）

部門	題目	和漢書	洋書	合計	百分比例
第一門	書目、事業、叢書、隨筆、少年圖書	一一、一五六	〇	一一、一六六	一三・七三
第二門	宗教	一、〇八二	一	一、〇八三	一・三三
第三門	哲學 附教訓	三、四〇〇	一	三、四〇一	四・一九
第四門	法律、政治 軍事	六、六八五	六	六、六九一	八・二三
第五門	社會、經濟 財政、教育等	六、四二五	一九	六、四四四	七・九三
第六門	文學 語學	二七、五七三	二四四	二七、八一七	三四・二一
第七門	數學、理學 工學、醫學	八、〇八五	一七	八、一〇二	九・九六
第八門	産業（農、工、商業）	三、三四五	二八	三、三七三	四・一五
第九門	美術 諸藝	四、一一六		四、一一六	五・〇六
第十門	歴史、傳記 地誌、紀行	九、〇七八	三七	九、一一五	一一・二一
小計		八〇、九四五	三六三	八一、三〇八	一〇〇・〇〇
一日閲覧平均冊數		三〇八・九五	一・三九	三一〇・三四	
一人一日閲覧平均冊數		二・一九	〇・〇一	二・二〇	

備考　本表中には閲覧室に展列の新聞雜誌を算入せず

館外貸出

圖書を館外に借受けて閲覧せんとする市内居住者の便を圖り、大正三年四月より館外借覧手續を定めて貸出を實行せり。

右に關しては門戸開放主義を取り保證人を立て又は保證金の納付を要せず、單に身元確實と認めたる丁年以上の者には男女に拘らす其請求に因て即座に館外借覧特許證を附與し、且圖書集配人を毎週約一回其宿所に廻はらしめて集配の用を辨せしむることになせり、而して四月より十二月に至る九ヶ月間に特許證を附與したる者百八十一名にして、其の圖書借換をなしたる回數千二百九十回、之に貸付の圖書冊數二千四百六冊なるも、曾て一回だも圖書の亡失汚損を招き及返付を怠りたる等の事なきは地方公衆の諄朴正直にして公德心に富めるに依るならん歟、前記の期間に最適當と認めたる圖書を撰擇して館外貸出圖書目錄を二回編纂發行し且向後に於ても同目錄は藏書の增加に從て順次發行するの見込なり。

今特許證附與者を職業別にするときは即ち左の如し。

官公吏	四八人	教職僧侶	二一人
新聞記者	一〇人	銀行會社員	二〇人
醫師藥劑師	八人	商業者	二九人
鑛業製造業其他各種工業者	二一人	婦人	六人
無職業者	一八人		

分館及巡回文庫

分館は既に縣下唐津町其他に設置の計畫を立て丶目下建設地の郡衙、郡教育會及有志者と協議中に在るを以て來年度に於て實現の運びに至るべく、巡回文庫は實施以來僅かに二ヶ月にして閲覧所の數三ヶ所、廻付庫數四個に過ぎざれども、縣下一般に漸次其利用法を了解するに至りなば其普及すべきは正に疑なしとす。

建物及設備

本館は佐賀市松原町銅像園内の西北隅に位し南は堀端通に沿ひ、北は松原川に臨み、大正二年五月十五日起工し同年十一月五日竣工す、敷地五百七十七坪强にして建物は主館一棟、書庫一棟、附屬家二棟より成り、建坪七十八坪、間口四十二尺、奥行七十五尺とす。

主館は木造塗家スレート葺き二階建にして地盤より軒までの高さ三十尺、面積四十五坪五合あり、階下表玄關は南方に面し右手に新聞臺を排列し、左手表階段の下に下足箱を裝置す、玄關を北に進めば右側に迎賓室、事務室、左側に閲覧人休憩室、内玄關、電話室、宿直室ありて正面を書庫とす、階上

は階段室五坪、男女閲覧室四十坪五合にして衝立を以て男女の座席を區分し、定員男七十二名、女十二名とす、室内には貸付臺、新着圖書展列棚等を配置し、目錄はカード式和漢書分類目錄、同式五十音順目錄及同式洋書分類目錄の三種を備へ、雜誌講義錄は目錄を別にす、尙ほ館外貸出圖書目錄は階下事務室に備付く

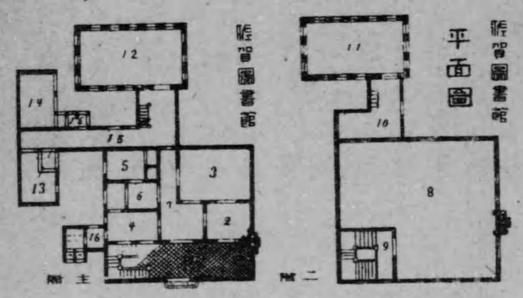
書庫は木骨煉瓦造、瓦葺き三階建にして主館の北方にあり、軒の高さ地盤より二十七尺、東西三十尺南北十八尺、面積十五坪にして各階に高さ六尺、幅十尺五寸の書架五列を裝置する外、庫の内外に雜誌及新聞紙用書棚を設備し又昇降機を裝置す、一階及三階は渡廊下に依て主館に直通し廊下の西北に裏階段を設けて館員昇降の用に便にす。

附屬家は瓦葺き平家建十七坪五合、構造は日本家造にして少年室、製本室、小使室、廊下、便所とす

少年室は定員十八名にして圖書撰定の上一部を同室内の書架に排列し、他の一部を書庫に收めて時々交換す、圖書の裝釘及補綴は本市に製本業者なきを以て館内に於て之を行ふ方針を取り普通の製本器具設備中なり。

本館の建設に關して要したる經費總額は金貳萬五千圓にして其内譯は左の如し

建築費	金壹萬六千八百六拾八圓九錢
圖書費	金貳千四百四拾八圓
設備費	金貳千八百六拾八圓七拾錢
創立事務費	金壹千四百圓
雜費	金四百拾五圓貳拾壹錢
落成式費	金五百圓
豫備費	金五百圓



符合	室名	坪
1	玄關及新聞室	一四・〇〇
2	迎賓室	五・〇〇
3	事務室	八・七五
4	閲覧人休憩室	三・七五
5	宿直室	三・五〇
6	内玄關電話室	四・〇〇
7	廊下	六・五〇
8	閲覧室	四〇・五〇
9	階段室	五・〇〇
10	渡廊下	五・〇〇
11	書庫三階	一五・〇〇
12	書庫一階	一五・〇〇
13	製本室及小使室	五・〇〇
14	少年室	五・〇〇
15	渡廊下	九・〇〇
16	便所二ヶ所	三・五〇

館員

館主　侯爵　鍋島直大
館長　伊東祐穀
副館長　伊東平藏
事務員　永田義彦
同　荒木武夫
同　香月久實
出納手三名、小使二名

圖書雜誌新聞紙寄贈者芳名（五十音順）

寄贈者　圖書　冊數

青柳勝次郎君　一
赤司喜次郎君　五
足利織物同業組合　五
天野文造君　三

寄贈者　冊數

池田勘逸君　三
石坂文庫　五
丸うた子君　五
井手勝次君　三

伊東祐穀君　五
伊東祐道君　一
伊東平藏君　七
井上淺吉君　三
茨城縣立圖書館　一
今井貫一君　一
岡山醫學專門學校　二
岡山縣廳　一
小城郡役所　一
伯爵大隈重信閣下　一
大藏大臣官房銀行課　一
大阪高等工業學校　一
大阪府　一
大阪府立圖書館　一
大高將悅君　一
太田爲治君　一
大坪萬六君　二
財團法人大橋圖書館　二
神戸市立圖書館　一
鹿兒島高等農林學校　一
神奈川縣廳　一
鐘ヶ江東作君　一
樺太廳　一
神崎郡役所　一
閑叟公御銅像建設事務所　一
歸一協會　二
九州帝國大學　三
九州遞信局　二
北原種忠君　二
京都府教育會　一
京都府水產講習所　一
京都府立京都圖書館　六
木山定生君　一
熊本縣水產試驗場　一
熊本縣廳　一
熊本高等工業學校　一
熊本市役所　一
熊本圖書館　三
栗並友雄君　二
栗原要藏君　一

黑江漆器同業組合　二八
私立慶應義塾　一
佐賀瓦斯株式會社　二
佐賀郡役所　一
佐賀縣水產試驗場　一
佐賀縣　廳　一
佐賀縣立工業學校　三
佐賀縣立農事試驗場　一
佐賀商業會議所　一
尙德協同會　三
十川弦之祐君　一六
副島延一君　三五
第五高等學校　一
第七高等學校造士館　二二
大日本國風會　一
臺北臺灣銀行　三
高島嘉右衛門君　一七七
高島元吉君　三
筑豐石炭鑛業組合事務所　一
茶業組合會議所　一
一帝國圖書館　四二
三帝室林野管理局　二
四東京高等工業學校　一
一東京高等商業學校　一
一東京統計協會　一
七九東京府立農事試驗場　一
一東北帝國大學圖書館　三
一六內務大臣官房會計課　一
五長尾半平君　一
一中尾良吉君　三
一中野道明君　一六
四中野禮四郎君　三五
一名古屋商業會議所　一
一鍋島哲雄君　二二
一奈良女子高等師範學校　一
七成田圖書館　三
一〇成富甲子太郎君　一七七
四南葵文庫　三
一西川甚五郎君　一
一西久保弘道君　一
馬場義雄君　二
原澄次君　一
原田一二君　一
肥前協會　二
東京市立日比谷圖書館　一
平田秀生君　四
ビーク君　一
福岡倉一君　一
北海道廳　三
本間光輝君　文部省
松尾連君　一
松村韻抽君　一八雲香堂君
松本瀧太郎君　六山口縣立山口圖書館
水町袈裟六君　一横田茂次郎君
三井光三郎君　一吉村茂三郎君
一水科七三郎君　一早稻田大學
五三菱合資會社唐津支店　五若松市立會津圖書館
六三重縣立農事試驗場　一
一宮城縣立圖書館　二
二門司市敎育支會圖書館　一
六二森永理介君　一
一文部省　一
一八雲香堂君　一
六山口縣立山口圖書館　一
一横田茂次郎君　一
一吉村茂三郎君　一
一早稻田大學　四
五若松市立會津圖書館　一

雜誌

寄贈者　冊數
東京愛國婦人發行所　二二

名古屋 愛知縣商品陳列館
伊東祐穀君
同
同
同
同
同
同
伊東平藏君 東京
太田保一郎君
大谷商店 東京
川野竹一君 佐賀
鑛業及鑛夫社 東京 福岡
石炭鑛業組合事務所 筑豐

愛知縣商品陳列館報告 二
白毫 二
皇道 一
旅行案內 一二
Bulletin of the united states Bureau of labor statistics. 三
Norddeutscher Lloyd Bulletin. 六
U. S. Department of Agriculture Farmers' Bulletin. 六
The Far East. 五五
Lloyd—Zeitung. 七
帝國教育 一五
武藏野新報 一
大正釀界 一
國柱新聞 二七
鑛業及鑛夫 筑豐石炭 七
鑛業組合月報 一一

神戶 關西公論社
佐賀縣 佐賀縣教育會事務所
東京 佐賀鄉友青年會
佐賀縣立佐賀商船學校校友會
長野 信濃養蜂協會
東京 白木屋吳服店
臺灣總督府殖產局
大連 大陸社
福岡 大正時報社
東京 中央教育協會
東京 帝國地方行政學會
東京 圖南社
東京統計協會事務所
東京書籍店組合事務所
東京尺八講習會

關西公論 一一
佐賀縣教育會雜誌 一一
佐賀 五
有明 一
養蜂指針 一二
流行 一二
商工月報 一
大陸 一一
大正時報 一三
日新之學藝 一
地方行政 一〇
南洋及臺灣 二
統計集誌 一二
圖書月報 一
尺八界 二

東京 統計學社	統計學雜誌	一二
東京 東京法律事務所	月報	三
東京 南葵文庫	史蹟名勝天然紀念物	二
私立名古屋通俗圖書館	名古屋通俗圖書館報	二
日本圖書館協會	圖書館雜誌	四
大阪 日本印刷界社	日本印刷界	一一
日本自働車倶樂部横濱支店	自働車	八
東京 日本圖書新報社	日本圖書新報	二
東京 日本貿易協會	貿易	二
農商務省商工局	農商務省商品陳列館報告	一
農商務省特許局	商標公報	五七
同	實用新案公報	五五
同	特許公報	二八
東京 博文館	中學世界	一四
同	淑女書報	一三

同	太陽	一三
東京 同	圖書世界	一
東京 貿易時報發行所	貿易時報	二
東京 富山房	新日本	二
京都 武乃世界發行所	武乃世界	一一
東京 松本屋樂器合資會社	月刊樂譜	二
東京 三越呉服店	みつこしたいむす	二
横濱 明治屋	嗜好	一〇
大阪 養鷄園藝社	養鷄と園藝	八
愛知縣 養蜂界社	養蜂界	一三
東京 ロー〜マ字ひろめ會	ローマ字	一一

講義錄

兵庫 二樂莊出版部	簡易佛教講義錄	三
東京 早稲田大學出版部	政治經濟科 早稲田大學講義錄	三〇

同	早稲田中學講義	四八
同	早稲田商業講義	四八
		三六

新聞紙

伊東半藏君	東京日日新聞
唐津新報社	唐津新報
九州日報社	九州日報
九州新聞社	九州新聞
關門日々新聞社	關門日々新聞
西肥日報株式會社	西肥日報
西海新聞社	西海新聞
佐賀新聞社	佐賀新聞
佐賀日々新聞社	佐賀日々新聞
佐賀每日新聞社	佐賀每日新聞
長崎日々新聞社	長崎日々新聞社
日就社	讀賣新聞

附錄

附　錄

九州圖書館聯合會

九州各地圖書館相互の聯絡を計りて斯業の發達に資し且は縣下の讀書趣味を皷吹せしめんが爲め佐賀圖書館主催となり同館落成一周年記念たる大正三年十一月十日午前十時より同館に於て開催せり、此日同館にては特に一般の閲覽を謝絶し玄關に大國旗を交叉し館内全部を整頓し樓上閲覽室を整理して會場に充てたり定刻一同着席するや館長伊東祐穀氏は左の如く開會の辭を陳べられたり

只今から九州圖書館聯合大會を開會致します本會の趣旨は九州各地に散在する圖書館員一同の聯絡を計り互に親睦を厚くし各自圖書館事業に對する希望と抱負とを披瀝して事業の進歩改善を計らんとするものであります本會の趣旨に多數諸君の御賛同を得まして茲に第一回大會を開くことを得ましたのは諸君と共に欣びに堪へぬ所であります殊に今日は熊本、鹿兒島、長崎、宮崎、福岡、大分等の遠方より來會せられた方々もあり本會に對する熱心と好意とに感激する次第であります尚は本日は來賓として本縣知事閣下を初め縣市會議員其他有志諸君の御來臨を得ましことは本會の幸福とする所でありまして感謝を致します一年の過去に屬します昨年の本月本日は此の佐賀圖書館が鍋島閑叟公御銅像除幕式と同時に設立せられました日に當り正に滿一周年の祝日であります此の記念日

に常り佐賀圖書館に於きまして本會第一回大會を開催致しまするは又好箇の記念たると同時に佐賀圖書館の光榮であります私は佐賀圖書館長として本會第一回が佐賀に於て開催せられたこと歡び謹んで謝意を表します此の機會に於て一言陳述致したいことがあります夫れは餘事ではありません本縣下唐津、小城其他の地に漸次圖書館の分館を設立せんとする議が熟し略ほ決定されて居ることであります圖書館利用の普及はやがて文敎の發達國家隆昌の基礎となつて又刻下に於ては九州圖書館界の一勢力をなすとと思ひます要するに本會は圖書館事業に經驗を有し或は圖書館に對して智識を有し又社會敎育に趣味を有する人々が相寄り相集りて一致團結し以て將來圖書館事業の發展を畫策し或は研究すべき事項を提出し或は意見を發表して批評を求め又は其他の方法によりて本會の趣旨を貫徹したいのであります此れ實に圖書館事業の爲めに稗益する所尠なからずと思はれまするのみならず社會公衆の便益を援助し國家文敎上に貢献する所大なるものであるべきを欺ひません然ども本會の目的を有効に達成すると否とは一に懸つて吾人の双肩にあります是に於てか大なる覺悟を要することゝ思ひますが私は諸君の熱心に信賴して本會の趣旨を立派に貫徹し得るのもと確信致します今や我が青島攻圍軍は宣戰公布以來約八旬總攻擊開始後僅かに一週日にして東洋唯一の稱がありました獨逸の堅壘を覆滅し我軍の武威を一層世界に輝かすに至り實に慶祝に堪へぬ次第であります文事あるものは必ず武備ありと申します如く數度の外役に我軍の勝利を得ましたのは畢竟國民敎育が預つて力ありと一般に認定されて居りますから敎育上の重要機關たる圖書館事業の如きは此際と雖も決して等閑に附すべきに非ずと信じます開會の初めに當りまして聊か本會の趣旨を闡明し本會の誕生を祝し併せて閣下及び諸君の御健康を祝します

次で來賓若林縣知事、野口佐賀市長、佐賀百六銀行取締役吉田久太郎氏、熊本縣立圖書館長中津親義氏、福岡私立圖書館長廣瀨玄鋹氏、岸本內務部長等の祝詞朗讀及演說左の如し

祝詞

茲に本館創立一周年の記念祝典を擧げらるゝに際し九州聯合圖書館會議を開設せられ諸君と相見るは誠に欣喜の至りに堪へざるなり

夫れ學術研究の資を供して學者の智能を增進し且つ公衆の讀書趣味を涵養して其風尙を高むるは圖書館の設置に如くはなし本縣此等の設備なきを遺憾とするや久し客年十一月鍋島侯爵家の義擧に依り始めて本館を設立せられ爾來茲に一週年館員諸氏の適切なる施設と熱誠なる奮勵とに由り其惠澤に浴するもの日に月に多きを加へ今日の隆運を致せるは國民性の養成智能の啓發に貢献する所大なるらずとせず殊に今回會議の結果は協同連絡の實を鞏固にすると共に本館の前途に一段の進步を見るや必せり

今や我國は世界に對する使命を自覺し國民亦步武を整へ理想の境に驀進せんとするの秋なり即ち本

事業の發展に待つ所益々切なりとす聊か蕪詞を陳べて本日の盛典を祝し併せて遠來會員諸氏の健康を禱る

大正三年十一月十日

演　說

佐賀縣知事從四位勳三等　若林賚藏
佐賀市長　野口能毅

本日九州圖書館聯合會に當り不肖其席末を穢すの光榮を有せり就ては一言主催地の故を以て祝辭を陳べんとす今日我國の教育は下は小學校より上は大學校に至るまで其施設殆んど間然する處なし乍併此階級的修學には尠からざる學費と時間とを要するなり然るに學問は決して學校に於てのみ爲し得らるゝに非ず他に幾多の方法はあれ共今日の時代の如く新刊續々出版せられ所謂汗牛充棟も只ならざるに於ては之を購ふ事富豪ならざる限り能く能はざる處なり各地の圖書館は缺陷此不便を補ふと共に一面に於ては階級的に修學し能はざる者の爲めに其志を遂げしめ且又正則の學校に在る人々に對しても其修業上に多大の便宜を與ふる者なり嘗て聞く米國の大富豪「カーネギー」は素貧に生れ正式に修學する事能はず困苦の裡に人と成れり而して其篤學は彼が僅少の時間を偷み圖書館にて勉學したるものにして今日彼の該博なる智識は寔に圖書館の賜物なりとされば彼富をなすや少青年を已れと同一の不運に在る多數の人々の爲めに便せんと巨費を投じて各地に圖書館を設立したりと云ふ本館（佐賀圖書館）は幸にして鍋島侯爵家の寄贈に係り其建物の壯麗なる諸般の設備の完全せる地方に珍らしき所にして斯かる良圖書館を有するは以て我佐賀市の光榮とし誇りと爲す所なり今日九州各縣の專門家諸氏互に相連絡して其目的の達成に努力せらるゝは大にして國家の爲め小にしては我縣我市の爲め洵に欣賀に堪へざる所にして吾人が齋しく感謝措く能はざる所是れ玆に聊か蕪辭を陳べて祝辭と爲す所以なり

祝　詞

國家の隆替は國民教育の盛衰に依て分る而して國民教育の基礎たる素より學校にあるは言を俟たずと雖も之を社會に普及して以て益向上せしめんと欲せば須らく圖書館の設置なからざる可からざるなり由來吾佐賀の地たる意を教育に注ぐや深く鍋島家三百年の治世碩學鴻儒を出せしもの少からず王政維新に際し世擧つて武を練り又文事を顧みるの暇なき時に於てすら尙且吾弘道館の名は嘖々として天下に聞ゑたり其遺風今に於て存し篤學の士乏しからず學校の設備整はざるに非ずと雖も未だ圖書館の設なきは最も遺憾とする所なりしに偶々縣民相謀り恩公閣下の銅像を建設するの擧あり舊主侯爵家に於かせられても大に此擧を嘉せられ工竣るや酬ゆるに圖書館の設立を以てせらる爾來經營一手に及び其の任に當る諸君能く侯爵閣下の意を體して拮据勤勉孜々として倦まず就て益を受く

るもの日に數百人に及ぶ斯の如くんば縣下の交物彬々として興り風敎の美を成すもの亦應に多大なる可きを信せず豈謝せざる可けんや冀くは當任の諸君益斯業の發展を謀り以て吾敎育界の爲めに盡されん事を本日設立一周年記念日に當り九州圖書館聯合會を開催せらるゝに際し余亦招かれて其末班に列なるの榮を蒙る聊か所感を述べて以て祝詞に代ふ

大正三年十一月十日

吉田久太郎謹白

演說

熊本縣立圖書館長　中津親義

本日九州圖書館聯合會を兼ね佐賀圖書館の一周年記念會を開催せらるゝに當り官民貴顯諸君と九州圖書館關係一同が一堂の下に會合するを得たるは予の喜悅に堪へざる處なり明治三十六年圖書館令發布以來今日まで各地に圖書館の設立せらるゝもの其數六百六十九に達し我九州にも一二縣を除く外各地に之を見るに至り其盛なる發展を見るは寔に愉快に感ずる處なりと雖も我國に於ける圖書館は學校數の八十分の一にして其經費は僅かに學校費の四百分の一に滿たず今や歐米各國は何れも萬を以て算へ其經費も亦學校費と大差なき狀態に在り抑も學校敎育は制限的敎授的注入的なるに對して圖書館は一般的自發的研究的なりされば此利を見て目下殆んど强制的に之が設立を促す國さへあるに比すれば我國の圖書館は未だ極めて幼稚且つ不完備にして歐米諸國の域に達するには其前途甚だ遼遠なり此れ取も直さず今日我國に於ては未だ一般に重要視されざるが故なれば吾人關係者は一大覺悟を以て輿論を喚起して以て其發達を圖らざる可からざるの秋なり本日の會合は此意味に於て極めて有益なる會合なれば各自其施設利用方法及發展の策に就て其研究を發表し抱懷せる意志を披瀝し其目的の達成に努めん事を欲す此二個の意味に於て予は此聯合會に卒先大賛成を表したる次第なり輙ち佐賀縣下有力家諸氏の會合は第一の意味に於て重大なる効果あるべきを信ず吾人關係者は此機に於て益々吾人の本分を發揮せん事を期せざる可らず一言以て祝辭と爲す

祝詞

「カーライル」が言ひし如く圖書館は實に「人民の大學」にして社會に對する智識普及の源泉たること素より多く喋々を要せず今夏歐洲戰亂勃發以來吾邦學問に生產に獨立の必要を痛切に感ずるに至りしは吾人帝國の前途の爲め欣喜に堪へざる所なり於是乎特に智識普及の必要今日より急なる秋なく圖書館の重要益々加はる此時に當り佐賀圖書館九州圖書館聯合會を開催し以て圖書館事業の改善發達の道を講せんと圖らる吾人豈賛成せずして可ならんや其盡力の効空しからず今や此嘉辰を卜し發會式を擧げられ此盛會を見る吾人各宜しく蘊蓄を披瀝し以て協議團結し斯界の爲め十分の効果あるを期せざる可からず玆に佐賀圖書館の盡力を感謝すると共に本會の前途益々多幸ならんことを祈るものなり些か所懷を摠べて發會の祝詞となす

大正三年十一月十日

右終つて後伊東佐賀圖書館長は左の日本圖書館協會總裁德川頼倫侯の祝辭を代讀せり

私立福岡圖書館長　廣瀬玄鋹

祝　詞

九州圖書館聯合會を開かるゝに際し其の地方圖書館事業の發展に貢献する所頗る大なるものあるべきを信じ此種聯合會の今後信に隆昌ならんことを祈るや切なり圖書館をして帝國文敎の中心國民敎化の源泉たるの實あるに至らしむるは予が年來の宿望とする所にして苟くも此の如き一歩武を進むるに足るの擧あるに逢はば諸君と共に最も欣慶に勝へず乃ち遙かに一言を寄せ以て祝辭とす

大正三年十一月十日

日本圖書館協會總裁侯爵　德川頼倫

續いて伊東平藏氏は鍋島侯爵閣下を初め其他諸氏の祝辭祝電等を代言又は披露せり

聯合會の發會を祝す

侯爵　鍋島直大

圖書館記念日に於ける聯合會の大會を祝す

子爵　鍋島直虎

本日の盛會を祝し將來の發展を祈る

伯爵　大隈重信

大會を祝す

子爵　小笠原長生

拜啓九州圖書館聯合會御開催の儀は我國圖書館界近來の一盛擧に可有之其斯業の發展に貢献せらるゝ所蓋し小少ならずと存候こゝに謹みて其發會を賀し併せて同會の前途永く隆福無疆ならんことを奉祈候　敬具

大正三年十一月十日

東京帝國大學附屬圖書館長　和田萬吉

聯合會を祝し其の進運を祈る

京都帝國大學附屬圖書館長　新村出

大會を祝す

内閣文庫　本多辰次郎

盛會を祝す

慶應義塾圖書館長　田中一貞

適切なる御會合を祝す　宮城縣立圖書館　山中樵

圖書館聯合會御開催を祝す　南葵文庫

聯合會の開會を祝し成功を祈る　帝國圖書館長　田中稻城

聯合會を祝し圖書館の發展を祈る　鍋島桂次郎

以上

次て閉會の辭を述へられたり左の如し　佐賀圖書館副館長　伊東平藏

佐賀圖書館の一週年記念日に際して九州圖書館聯合會が呱々の聲を擧げ本館は其第一回主催地たる榮譽を荷ひて本縣若林知事閣下を始め縣市多數の當局及縣下屈指の有力家並に九州各縣重要圖書館長の御臨席を仰ぎ又大隈首相、德川、鍋島、兩侯爵閣下、小笠原子爵閣下、田中帝國圖書館長、和田、新村、兩帝國大學附屬圖書館長其他遠く各地の圖書館長等より祝詞祝電を忝ふしたるは聯合會並に本館の最も光榮とし且感謝の至りに堪へざる所であります

顧るに我圖書館事業は尙ほ未だ社會一般の十分なる注意を引かざるのみならず密接の關係を有する教育界よりすらも動もすれば等閑視せらるゝの傾向あるは誠に慨嘆に堪へざる所なるに今日斯く大方貴顯名士諸君の御同情を得ましたるは今後輿論の釀成上に一大根據を得たる次第にして獨り圖書館事業の發達に有力の後援たるに止らず尙ほ今日の會合に重大なる意義を與へられて間々愛書家連の催ふす閑會合とは大に撰を異にして吾人は今後益々奮勵努力我九州圖書館の發展上進を期するに在るものたる事を確かめられたるのは特に感謝する所であります謹で滿腔の謝意を述べ之を以て記念會を閉會致します

閉會後晝食記念撮影等なし一時三十分より講演會に移り熊本圖書館長中津親義氏の「社會教育と圖書館」佐賀圖書館副館長伊東平藏氏の「通俗圖書館に就て」長崎圖書館司書大木辰次郎氏の「圖書館と其從事者」等の講演あり午後五時より同市楊柳亭に於て有志の懇親會を催せり當日の出席者は前記の外西野佐賀地方裁判所長、稻澤檢事正、松村理事官、中野商業會議所會長、長谷川典獄、熊野御堂佐賀警察署長其他各中學校長縣市會議員縣郡視學市內實業家有志及一般教育關係者新聞記者等百數十名也き尙縣外圖書館出席者左の如し

▲熊本縣立圖書館長中津親義氏、同書記佐々木伸作氏、同林秋雄氏、同縣玉名郡立圖書館長中島仰

氏、同縣清浦文庫代理者波多巖氏、▲大分縣中津圖書館長中野松三郎、大分記念福澤圖書館長坂本永定氏、▲私立福岡圖書館長廣瀬玄鋹氏、門司敎育研究會圖書館長平位豊太郎氏、▲鹿兒島圖書館長片山信太郎氏、▲長崎圖書館司書大木辰次郎氏、平戸故沖禎介記念圖書館主沖莊藏氏、▲宮崎縣立圖書館長山内卯太郎氏

第二日は翌十一日午前九時より佐賀物産陳列館樓上會議室に於て協議會を開き前日講演の未了者鹿兒島縣立圖書館長片山信太郎氏の「圖書の撰擇及取扱法」に關する講演ありたる後佐賀圖書館長伊東祐穀氏推されて座長席に著き左の協議を遂げたり

一、大正四年より毎年一回九州圖書館聯合會を開き兼ねて日本圖書館協會九州地方會を開催する事

二、九州地方會の決議及研究事項は日本圖書館協會へ報告する事

三、攻圍軍指揮官並に第二艦隊司令長官宛本會名義にて感謝狀を贈る事

四、本會名義を以て福岡縣首腦圖書館建設方同縣知事及縣敎育會へ希望を致す事

右の中第一二三案は滿場一致可決となりたるも第四案は同縣へ對し遠慮すべき處ありとて異議者在り結局或時機まで延期する事となり次回は明年熊本市に開催する事を議定し主催館長の挨拶ありて閉會

一同晝餐後同陳列館縱覽の上午後一時より谷口鐵工所、侯爵家内庫所、古賀製次郎氏邸園等を巡覽せり當日は圖書館關係者の外松村佐賀縣學務課長並に同課員縣郡視學各中學校長等多數の出席者ありたり縣外出席者は圖書館事業が縣民に重要視され居るを喜び何れも頗る滿足せるもの丶如く見受けられたり因に攻圍軍指揮官神尾光臣閣下並に第二艦隊司令官加藤定吉閣下宛感謝狀左の如し

九州圖書館第一回聯合會を開くに當り會々青島陷落の公報に接す扑舞措く所を知らず本會は玆に滿腔の熱誠を捧げて祝意を表すると共に謹で貴軍の偉勳を深謝し併て貴軍の勞苦を奉慰す

大正三年十一月十一日　　佐賀縣佐賀市佐賀圖書館内九州圖書館聯合會

右の感謝狀に對し兩將軍より九州圖書館聯合會宛にて左の禮狀に接せり

拜啓　陛下之御稜威と國民諸氏の熱烈なる御後援とに依り青島を奪取し得たるに對し早速御鄭重なる御祝詞に接し感謝之至に不堪一同に代り厚く御禮申上候　敬具

大正三年十一月二十八日　　神尾光臣

謹啓青島陷落に對し早速鄭重なる御祝詞を忝ふし感謝の至りに不堪之れ偏に　天皇陛下之御稜威と國民諸氏之至大なる後援之然らしむる所と深く感拜致し居り候玆に貴會に對し深厚なる謝意を表し申候　敬具

大正三年十一月二十七日　　第二艦隊司令長官海軍中將　加藤定吉

278
38

大正四年四月十七日印刷
大正四年四月二十日發行

（非賣品）

發行所　佐賀圖書館
東京市麴町區永田町二丁目七十五番地

編輯兼發行者　伊東祐穀
電話新橋二三五二番

印刷者　佐脇七之亮
東京市芝區愛宕町三丁目一番地

印刷所　佐脇印刷所
東京市芝區愛宕町三丁目一番地
電話芝二四二五番

終